

2020 年度「自立援助ホーム支援助成」助成事業実施報告書

団体名 _____ 特定非営利活動法人 要
代表者・役職名 氏名 _____ 理事長 米岡 妙子

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 申請事業の名称

みんなでつむぐ！住環境改善事業

2. 自立援助ホームの概要(創設の経緯、創設時期＝法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

自立援助ホーム紬は 2019 年 1 月、スクールカウンセラーを中心とした有志 11 名が起ち上げた NPO 法人要により開設した。広島県と山口県の県境に位置し、海と山に面した長閑な生活環境である。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

入所者の精神的な安定を得るために、プライバシーを確保できる空間があることが望ましいが、当施設は 2 人 1 部屋であり、プライバシーの確保が難しかった。また、入所者同士の諍い時、建具を破壊したり、他者の物を平気で使ってしまう心情の元に、施設に対する愛着と他者への思いやりの気持ちが持てていないことなどが考えられた。当事業で入所者、職員が主となって自分たちの住環境を DIY することによって、施設に愛着を持ち他者を思いやる生活を送ることができるようになることを目的とした。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

入所者の各部屋を、入所者自身が職員と専門家(大工)と共に、プライベート空間を作成すべく DIY を行う。現状ある収納や、新規に購入予定の防音カーテンなどを使用し、入所者自身と同室者の話し合いの元、使いやすい間取りなどを考えて作成する。その際、カーテンレールの設置や必要であれば壁の新設など専門的知識や技能が必要なことは専門家(大工)に助力を求める。しかし、あくまでも入所者と職員が主に作業を行う。完成後、愛着をもって生活してくれることを期待する。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生じた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

職員 4 名、入所者 4 名、専門家(大工)1 名により、木材を使用した DIY による壁と、購入したパーティションを組み合わせることで、1 部屋を 2 つに分け、プライバシーを確保できる空間を作成した。そのことにより、入所者は自分のスペースを自分なりに装飾することで愛着を持ち始めた。DIY で協力して作業することにより、入所者同士、また入所者と職員間で会話が増えた。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

プロジェクトの終了が当初の予定より大幅にずれ込んだ。DIY で壁を作るなど、経験したことのないことに対して消極的な姿勢の入所者が多く、当初は組み立てるだけのパーティションで良いと短絡的に主張され、職員も承諾してしまった。しかし実際にパーティションのみで部屋をわけ生活してみて、防音性などに不満を感じ、壁の作成などに着手することとなった。企画提案の段階から入所者に対し、先の見通しを持たせる提案や討論ができていれば、無駄が省け、予定のずれ込みを防げたことを踏まえ、今後の活動などに活かしていきたい。

7. 参考資料

支援対象事業で作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし

施工前



施工後

